廃墟の空間構成要素と経年変化の現れ方に関する考察

宇野研究室　　4105068　長野　楓

1．研究の背景と目的

廃墟とは、完成された建築物がその機能を終え、崩壊に至る過程の状態を指す。廃墟が鑑賞の対象として親しまれてきた歴史は長く、18世紀イギリスにおいても廃墟崇拝が起こり、人工的に廃墟をつくるまでの盛り上がりを見せた。そして昨今の日本では、廃墟を題材にした写真集や文献が多く出版され、廃墟ブームが起こっている。廃墟は建築としての機能を果たしていない状態であるが、人々の心をつかんでいることは確かである。また、20世紀初頭にドイツの哲学者ゲオルク・ジンメルは、著作『廃墟』の中で廃墟の魅力の源泉を次の3点にまとめている[註1)]。

・「目的と偶然の緊張」(人工物が風化によって美を増す)
・「精神と自然の緊張」(人工物が自然物として感受される)
・「現在と過去の緊張」(生の生成・流転・消滅が感じられる)

更に、廃墟におけるこの3点の緊張関係の凝集こそが、廃墟特有の魅力を構成している、とジンメルは主張する。本研究では、経年変化する中で現れる廃墟の空間構成要素の抽出を行う。並びにそれらの要素が作用し合うことで、純粋に時間の積み重ねを反映する空間はどのようなものなのか考察することを目的とする。

2．研究の方法

・**資料収集**　日本の廃墟写真を文献[註2)]より収集
・**データシート作成**　収集した写真から廃墟の空間構成要素を抽出し、要素抽出表をつくる
・**要素分析表作成**　抽出した要素を分類・分析する
・**現地調査**　文献調査で得られた要素の確認

3．研究の内容

3-1 データシートの作成および要素の抽出

文献から選択した、空間構成要素が読み取れる写真46枚を対象[註3)]に、一枚一枚について要素を詳細に記述した(データシートの作成)。その中で繰り返し現れてくる要素を、類似したものは統合するなどして20個選択し、要素の抽出を行った**(表-1)**[註4)]。更に、20個の要素を比較・分析し、ジンメルの3要素と照らし合わせながら「破損」「現象」「痕跡」の3グループに分類した。「破損」は建物の空間を形作る骨格が元の状態を失い壊れていることを示す要素(「目的と偶然の緊張」)、「現象」はその空間において生じている破損以外の自然作用による要素(「精神と自然の緊張」)、「痕跡」はかつて人間が生活していたことを示す家具や書物などの要素(「現在と過去の緊張」)をそれぞれ表している。

3-2-1 要素分析表の作成

3-1の写真46枚について、20個の要素一つ一つの有無を表にした**(表-2)**。横軸の要素の欄には、空間構成要素の他に建物の竣工年、廃墟となった年、廃墟化した理由、構造などの情報を、明らかになっている範囲で付加した。

3-2-2 要素分析の結果および考察

3-1で要素を分類してできた3グループと、廃墟のかつての用途との関係性の特徴を表にまとめた**(表-3)**。観光ホテルや病院・鉱山の住宅など、人が衣食住の生活をした上で、経営難や鉱山の閉山によって突然の退去を余儀なくされた場所においては、「痕跡」が多い事が読み取れた。そのもう一つの理由として、廃墟化した後も特に管理される事が無く、放置される場合が多いことも挙げられる。逆に、「痕跡」が少ないのは軍事施設[註5)]や警察署等、機能を失った後も建物内部に残存した物を厳重に管理・撤去する必要性のある場所が多かった。

「破損」については、構造や竣工年と大いに関係すると考えられた[註6)]が、写真では一部分しか空間が写されていないこともあり、一概にそうは言えなかった。しかしながら、今回作成した分析表からは、空間としては軍事施設が一番「破損」の少ない建物だと読み取れた。

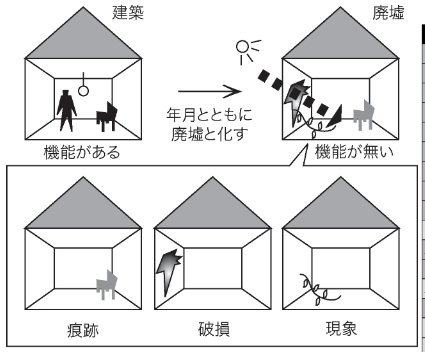
「現象」については、用途や構造との関係性は読み取りにくかったが、破損が多いと瓦礫の堆積物が増えたり、更に光の増加につながったりと、他の要素との関連性が読み取れた。

3-2-3 用途ごとの特徴の考察

廃墟の用途ごとの特徴と写真を再度照らし合わせた結果、「痕跡」が多いほどノスタルジーを感じさせるのではないかと推測できた。これは「痕跡」が、かつてそこで人間が暮らしていたことを想起させ、実際に体験していない過去まで想像させるためだと考えられる。時間の積み重ねを純粋に現す空間の考察を目的としたとき、ノスタルジーを引き起こす、いわば建築空間の付属物である「痕跡」は、空間自体の経年変化の現れ方とは違う種類のものである。また、経年変化を現す空間をみる際に、大幅に空間構成が失われていては、空間としての考察が難しい。よって、可能な限りノスタルジーが排除され、なおかつ空間構成の壊れていない廃墟こそ、時間の積み重ねを純粋に反映している空間であると推測される。つまり、それは「痕跡」と「破損」の少ない廃墟であり、この条件に該当する廃墟として軍事施設が浮かび上がった。しかし現時点では写真による文献調査のみなので、更なる調査を行った。

4．軍事施設についての調査

4-1 文献調査



▲ 図-1　廃墟とその空間構成要素

▼ 表-1　要素抽出表

空間構成要素	回数	空間構成要素	回数
窓破損	21	屋根変色	2
瓦礫	21	水溜まり	2
壁変色	21	窓目張り	2
壁崩壊	16	植生と同化	2
戸破損	14	パイプ欠損	2
家具残存	14	壁面剥離	2
錆び	11	鉄骨残存	2
家具崩壊	11	設置された機械	2
天井崩壊	8	植生壁面	2
光	8	床面剥離	1
屋根崩壊	7	食器	1
建物のシンボル	7	ゴミ	1
床変色	6	戸の開閉	1
落ち葉	5	周囲に何もない	1
植生せまる	4	天井変色	1
光増加	3	植生室内	1
枯れ木、枯れ草	3	レンガ崩壊	1
床崩壊	2	線路	1
柱崩壊	2	階段崩壊	1

▼ 表-3　用途ごとの特徴

用途	廃墟の写真	用途と特徴	用途	廃墟の写真	用途と特徴
鉱山宿舎		・家具、食器など「痕跡」が多いので、人の生活の様子が読み取れる ・閉山などによって、半ば強制的に退去させられていることが多い	鉱山工場		・工場にあらかじめ設置されている機械、設備等の残存 ・鉄骨が多いため、錆びが見られることが多い ・屋根や壁が崩壊している事が多い
病院		・家具の「痕跡」が多い ・病院特有の器具が残っている場合もある ・特にベッドの残存が多い	警察署		・用途上、頑丈に作られているため、「破損」が少ない ・厳重に取り扱う必要性のある物が多いため、「痕跡」は少ない ・ドアが多い
ホテル		・経営難などの理由により、突然退去するため、家具の「痕跡」が多い ・部屋から見える景色などとの関係もあり、元から植生がせまっている場合が多い	軍事施設		・厳重に取り扱う必要性のある物が多いため、「痕跡」が少ない ・「破損」も比較的少ない ・「現象」は少し見られる

軍事施設を中心に扱った文献[註7)]の写真を元に、再度空間を考察する。はじめに、3-2-2の要素分析で読み取った軍事施設の廃墟の特徴(「痕跡」と「破損」が少ない)は、今回の調査でも確認できた。また、軍事施設に特化した写真を扱うことで、新たに読み取れた空間の特性として、①色彩・装飾が少ない、②コンクリートが剥き出しであることが多い、③窓・柱が規則正しく並んでいる、の3点が挙げられる。しかしこれらは、軍事施設が機能を失って廃墟となっているかどうかに関わらず、建設当初から存在する性質であった。よって、軍事施設の廃墟において、3-2-2で挙げた軍事施設の廃墟ならではの特徴と、その建物が本来持つ特性が複合されていることが分かった。この複合が、より純粋な空間の骨格を表現し、時間の積み重ねを反映しやすい空間を生み出しているのではないかと考えられる。

4-2 現地調査

3-2、4-1で挙げた軍事施設の廃墟の特徴を現地調査で確認する。また、写真からだけでは読み取れなかった要素を抽出することも視野に入れながら調査を行った。対象地は次の4カ所である**(表-4)**。

・**米軍府中基地跡(東京都府中市)**　現在は大蔵省・地方自治体・防衛庁が分割して管理している。府中の森公園や生涯学習センター等の各種施設が建設されたが、大蔵省管轄の土地がほぼ手つかずで放置されており、今回の調査では倉庫等の建物をフェンスの外から確認することができた。戸や窓の破損は見られたが、骨格は比較的残され、痕跡はほぼ無かった。

・**岩鼻陸軍火薬製造所跡(群馬県高崎市)**　戦後、広大な敷地は3分割され、日本化薬株式会社、日本原子力研究所、県立公園群馬の森となった。火薬工室とそれを囲む土塁は今も残されており、群馬の森敷地内から見る事ができたが、窓が目張りされていて内部を調査する事はできなかった。「破損」は比較的少なく、骨格は残っている。

・**米軍立川基地跡(東京都立川市)**　昭和記念公園や、防衛省所轄の立川飛行場に面している。府中基地と同じで、周囲はフェンスに囲われており、内部に入る事はできなかった。広大な敷地は緑に覆われ、建物の確認は困難を極めた。

・**東京第一陸軍造兵廠跡(東京都北区)**　図書館と中央公園、陸上自衛隊十条駐屯地に囲まれた敷地である。赤煉瓦造りの建物は、現在北区中央図書館の一部となって保存されており、廃墟ではなくなっていた。しかしながら比較的「破損」は少なく、文献[註8)]から「痕跡」はほぼ無かったことが分かる。

これら4つの現地調査では、実際に廃墟の内部空間を調査する事は難しく、外部からの観察が主となった。しかしながら、建物が確認できたものについては比較的「破損」が少なく、「痕跡」も少なかった。また、どの建物も広い公園に面しており、フェンスなどで囲われたまま放置されている場合が多いので、人為的破壊の被害にも遭いにくいと考えられた。

▼ 表-2　要素分析表

No.	建物名称	用途	構造	竣工	廃墟	理由	破損 崩壊 壁	破損 崩壊 天井	破損 崩壊 床	破損 崩壊 屋根	破損 崩壊 柱	破損 破損 窓	破損 破損 戸	破損 計	現象 堆積 落葉	現象 堆積 瓦礫	現象 変色 壁	現象 変色 天井	現象 変色 床	現象 変色 屋根	現象 増加 光	現象 増加 植生	現象 増加 水溜り	現象 増加 錆び	現象 計	痕跡 家具 残存	痕跡 家具 崩壊	痕跡 計	シンボル
1	足尾銅山01	銅山	RC、S	1938	1973	閉山								0								●			1			0	
2	足尾銅山02	銅山	RC、S	1938	1973	閉山	●	●		●		●		4			●				●			●	3	●		1	
3	足尾銅山03	銅山	RC、S	1938	1973	閉山							●	1		●	●		●						3	●	●	2	
4	尾去沢鉱山01	鉱山	RC	-	1978	閉山								0			●					●	●		3			0	
5	尾去沢鉱山02	鉱山	RC	-	1978	閉山			●		●			2		●	●								2			0	
6	明延鉱山	鉱山	木造	-	1987	発破が原因で閉山	●					●		2			●							●	2			0	
7	春日鉱山01	鉱山	S	1901	-	閉山								0										●	1	●	●	2	
8	春日鉱山02	鉱山	S	1901	-	閉山	●			●				2											0	●		1	
9	松尾鉱山01	鉱山	RC	-	1969	強制的な閉山								0			●					●			2			0	
10	松尾鉱山02	鉱山	RC	-	1969	強制的な閉山	●	●						2		●	●		●						3			0	
11	田老鉱山	鉱山	RC、S	-	1971	閉山	●	●	●	●		●		5	●	●	●			●	●	●	●	●	8		●	1	
12	神岡鉱山01	鉱山	RC、S	-	2001	鉱毒事件、閉山	●	●		●		●		4						●				●	2			0	
13	神岡鉱山02	鉱山	RC、S	-	2001	鉱毒事件、閉山	●					●	●	3		●					●				2	●	●	2	
14	竜山鉱山	鉱山	木造	1869	1961	閉山				●		●		2								●			1			0	
15	旧坂出警察署	警察署	RC	1937	2003	新建物への移転								0											0			0	放射状の平面
16	ほととぎす旅館	観光旅館	木造	-	-							●		1	●		●		●		●	●			5			0	
17	山本園大谷グランドセンター	観光ホテル	RC	1955	-							●		1			●					●			2			0	
18	摩耶観光ホテル01	観光ホテル	RC	1930	1994	阪神大震災、経営難						●		1							●				1	●		1	大きな窓
19	摩耶観光ホテル02	観光ホテル	RC	1930	1994	阪神大震災、経営難						●		1			●					●		●	3			0	
20	摩耶観光ホテル03	観光ホテル	RC	1930	1994	阪神大震災、経営難								0											0			0	
21	金華山観光ホテル01	観光ホテル	RC	-	-		●					●	●	3		●									1			0	
22	金華山観光ホテル02	観光ホテル	RC	-	-							●	●	2		●									1	●	●	2	
23	平安閣	結婚式場	RC	-	-		●	●					●	3		●	●	●	●						4	●	●	2	
24	根岸競馬場01	競馬場	RC	1930	1969	通信所の役割の終わり						●	●	2			●								1			0	
25	根岸競馬場02	競馬場	RC	1930	1969	通信所の役割の終わり							●	1											0			0	
26	東京医科歯科大学霞ヶ浦分院	病院	木造	1920	-							●		1	●	●			●						3			0	
27	東京医科歯科大学霞ヶ浦分院	病院	木造	1920	-								●	1								●			1			0	
28	東伊豆町隔離病舎01	病院	木造	1958	1982									0		●									1	●	●	2	
29	東伊豆町隔離病舎02	病院	木造	1958	1982		●					●	●	3		●									1	●	●	2	
30	端島炭鉱（軍艦島）01	炭鉱	RC	-	1974	閉山								0			●								1			0	
31	端島炭鉱（軍艦島）02	炭鉱	RC	-	1974	閉山								0		●									1	●	●	2	
32	倉谷温泉	温泉	木造	-	-		●					●	●	3	●	●	●					●			4			0	
33	旧陸軍造兵廠跡	軍事施設	RC	1923	1945	終戦						●		1	●										1			0	
34	検見川送信所	軍事施設	RC	1926	1979	通信停止、閉局								0			●								1			0	ドイツ表現派風
35	米軍府中基地	軍事施設	RC	1939	1973	返還								0								●		●	2			0	アンテナ
36	米軍立川基地	軍事施設	RC	1922	1977	返還							●	1		●									1			0	
37	鹿島海軍航空隊跡01	軍事施設	RC	1920	1945	終戦								0		●									1			0	炊飯釜
38	鹿島海軍航空隊跡02	軍事施設	RC	1920	1945	終戦								0										●	1			0	S.14製ボイラー
39	日本セメント門司事業所	工場	RC	1928	1980	セメントの需要低減	●					●		2		●	●								2			0	
40	日本粘土鉱業岩手鉱業所01	工場	木造	-	1996	閉山	●	●			●	●		4			●					●			2			0	
41	日本粘土鉱業岩手鉱業所02	工場	木造	-	1996	閉山								0		●					●				2	●	●	2	線路
42	秩父太平洋セメント	工場	S	1925	1991	営業停止								0										●	1			0	
43	奥新川変電所	変電所	RC	1937	1968	交流電化完了　役割終了	●					●	●	3	●	●	●					●		●	5			0	
44	旧長崎刑務所01	刑務所	RC	1906	1992	新刑務所への移転		●		●			●	3		●					●			●	3			0	
45	旧長崎刑務所02	刑務所	RC	1906	1992	新刑務所への移転	●							1		●	●								2	●	●	2	
46	三峰ロープウェイ	駅	木造	1939	1964	輸送力強化のため新駅	●	●		●		●	●	5		●	●		●		●				4			0	
							16	8	21	7	2	21	14	70	6	21	21	1	6	2	8	13	2	11	91	14	11	24	7

5．結論

廃墟の空間構成要素を抽出し、経年変化の現れ方を考察した本研究から、以下の3つが把握できた。

・廃墟はかつての用途ごとに、それぞれ特徴を読み取れる。
・特徴を読み取る際の手がかりが「痕跡」であることが多く、その建築物に機能があった頃を想起させるので、ノスタルジーを引き起こしやすいと考えられる。
・「痕跡」の少ない軍事施設は、ノスタルジーの排除された空間であると同時に、「破損」も少ないため建物の骨格も保っており、時間の積み重ねを純粋に反映している空間だと言える。また、現地調査によってその事実が確認できた。

廃墟には、ジンメルの主張した廃墟の魅力の源泉3点が実際に存在する。それらが廃墟ならではの空間構成要素として相互に作用し合うことにより、普段は感じる事のできない時間の積み重ねを感じさせている。しかし、今回調査した廃墟は近年解体される予定のものが多く、廃墟の魅力となる空間構成要素が失われる傾向にある。今後は、本研究で把握できなかった、廃墟空間におけるより具体的な実態調査を進め、時間の積み重ねによる廃墟の魅力を失わずに継承していく方法を模索したい。

脚注：1)ゲオルク・ジンメル（1858-1918）はユダヤ系ドイツの哲学者、社会学者。本研究では(文献1)の中のエッセイの一つである「廃墟」に記述されている3要素を参考にした。　2)(文献2)より　3)(文献2)に掲載されている全ての写真のうち、空間構成要素が読み取れうる内部写真もしくは近景の写真を対象とした。　4)濃い網がけの要素は単独で抽出したもの、薄い網がけの要素はいくつかを統合したもの、網がけ無しの要素は除外された要素である。　5)ここでの軍事施設とは、米軍府中基地跡、米軍立川基地跡、旧陸軍造兵廠跡、検見川送信所など、かつて戦争のために造られた施設などで、現在もそのままないし遺構として残っているものを指す。　6)RC造よりも木造の方が、竣工年がより昔の方が「破損」が大きいのではないかという仮説に基づく。　7)(文献3)より　8)(文献3)より

参考文献：1)Georg Simmel「ジンメル・エッセイ集」、平凡社ライブラリー、1999　2)「ニッポンの廃墟」インディヴィジョン、2007　3)石本馨「戦争廃墟　昨日の事は昨日の目で見よ」ミリオン出版、2006　4)菊池実他「フィールドワーク　群馬の戦争遺跡」第10回戦争遺跡全国シンポジウム群馬県実行委員会、2007　5)菊池実「近代日本の戦争遺跡―戦跡考古学の調査と研究」、青木書店、2005　6)中田薫、中筋純「廃墟本」ミリオン出版、2005

▼ 表-4　現地調査概要

建物名称	米軍府中基地跡	岩鼻陸軍火薬製造所跡
現況写真		
所在地	東京都府中市	群馬県高崎市
竣工／廃墟	1939／1973	1937／1945
構造	RC	RC
調査結果	・敷地が広大 ・一帯がフェンスに覆われていて、敷地内に入る事は不可 ・外部から見えるだけでも、相当数の建物が残存していることが分かる	・群馬の森から、土塁跡と火薬工室の跡を眺められるが、柵があり中には入れない。窓も目張りされ、中は見れない ・屋根の破損は修理されたようであった
建物名称	米軍立川基地跡	東京第一陸軍造兵廠跡
現況写真		
所在地	東京都立川市	東京都北区
竣工／廃墟	1922／1977	1919／1945
構造	RC	レンガ
調査結果	・敷地が広大 ・一帯がフェンスに覆われていて、敷地内に入る事は不可 ・外部から確認できるのはほぼ煙突のみだった。 ・植生はかなり育っていた	・陸上自衛隊十条駐屯地と中央公園に面しており、北区中央図書館の一部になっている ・赤煉瓦造り ・規則的な窓の配置